

TCFDの分類に基づくGX全体構造の整理



TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES

ムサシグループは、気候変動への対応をサステナビリティ経営の重要な課題と捉えています。
企業活動は勿論のこと、製品、サービスを通じて気候変動への対応を行い「人と環境が調和した豊かな地球社会の実現に貢献」します。
また、更なるステークホルダーとのコミュニケーションを図るため、当社は、2021年8月に気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提
言へ賛同を表明しました。当社イベントやホームページなどを通じ、開示情報の拡充に努めています。

【ガバナンス】	サステナビリティ戦略会議		
【目標】	マイルストーン2030, グリーンオペレーション100(2038) / カーボンニュートラル2050		
【戦略】	創る グリーンプロダクト ・CO2削減に貢献できる商品の創出 ・自然+αでの商品・サービスの提供	使う グリーンオペレーション ・エネルギー効率化消費の最小化 ・全工程再生可能エネルギーでの生産	繋ぐ グリーンコミュニケーション ・全ての活動をカーボンニュートラル化 ・地域・社会とのコミットメント
【リスクマネジメント】	➡ 全社横断の“リスクマネジメント”システムに踏襲		

■ ガバナンス

当社は気候変動への取組みを経営に反映すべく、コーポレートガバナンス体制の強化を図っています。組織における役割責任を明確にすることで、国内外グループ・関係領域は目標達成にむけた施策展開を責任をもって実行すると同時に、経営はその状況を監督します。

■ リスク管理

当社では、企業活動・行動に関わる全てのリスクを対象とした全社横断的なリスクマネジメントを行う体制を整えており、気候変動関連も含めたリスクの抽出・評価・モニタリングを行っています。特に、気候変動関連リスク（物理的リスク）は、事業継続上の重大なリスクとして選定しており「BCP委員会」にて事業継続計画を策定し、教育や訓練を定期的に実施しています。変化の激しいリスクの観点については、社会課題を積極的に取入れ、ステークホルダーや社外取締役からの意見を反映し、リスクの最小化を図るよう努めています。

1 取締役会

会社の取組み（方針・戦略）に対する意思決定を行う

2 サステナビリティ戦略会議

取締役会で決議された方針・戦略を受け、サステナビリティの実現にむけた方向性や目標・指標を審議し決定する。社会課題や経営的リスク・ガバナンスのみならず、中長期的な企業価値向上の観点を加え、各領域、国内外グループ会社へ課題解決にむけた実行を指示する。

議長

最高経営責任者

開催頻度

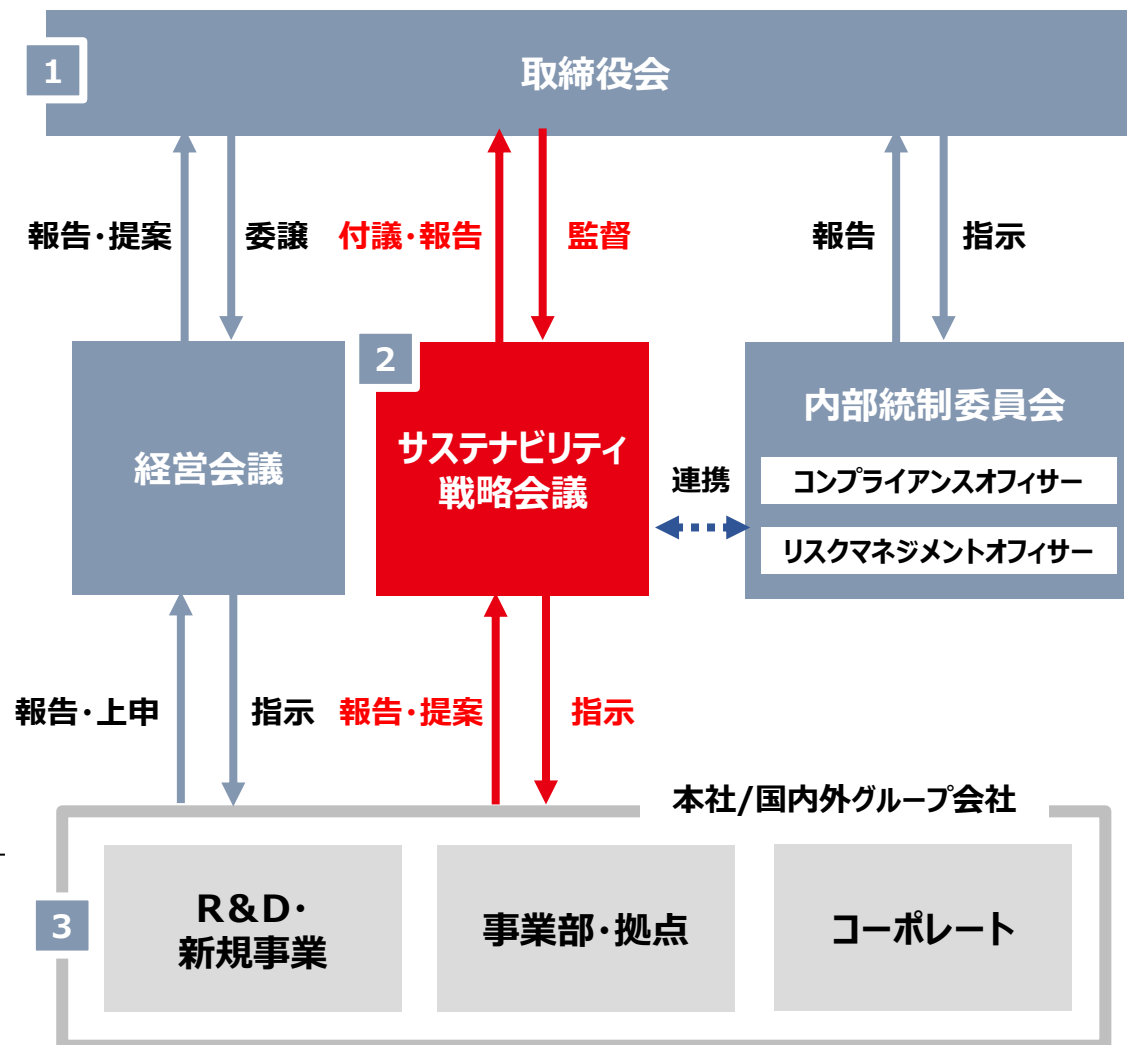
年2回以上

メンバー

取締役・CxO+外部有識者

3 実行領域(本社/国内外グループ会社)

目標達成にむけたPDCAサイクルを責任を詳細は当社ホームページをご覧ください。もって実行し、実行状況を経営側へ報告する。



気候変動が事業に与える影響を把握し、リスクと機会を分析することでリスクの最小化や新たな価値の創出を図り、事業の持続的な成長へ繋げる取組みを推進しています

気候変動リスク		想定されるリスク		機会		ムサシの取り組み	
移行リスク	政策・法規制	CO2排出の価格付け進展 CO2排出の報告義務化 既存製品・サービスへの 排出規制強化	各国での炭素税・環境税の導入・拡大 ライフサイクルCO2開示の厳格化 自動車産業への環境規制の強化	省エネ・生産の効率化の促進、新技術の導入 サプライヤーも巻き込んだカーボンニュートラルの促進 ※1 共通	ムサシ「グリーンオペレーション100」を策定。徹底的な省エネ、効率化、 自家発電をはじめとする再生可能エネルギーへの転換を推進。 段階的にライフサイクル全体でのCO2排出量の把握を予定 ※2 共通		
	技術	既存製品・サービスの 低炭素化への置換 低炭素技術への移行の先行コスト 新規低炭素技術への投資の失敗	EV化による製品不適合による売上の減少 EV化による要件不適合によるレガシーコストの増加 国際ルール・業界基準の変更による不適合	(※1) 低炭素製品・サービスの開発・新規事業創出 EV化に適合する既存製品機能の最適化と 新製品・サービスの開発 EV化に適合する既存技術の進化 新技術導入による新規事業創出	(※2) 既存技術の探究と深化によるEV向け商品の拡大 コア技術「伝達機能の最適化」の追求による競争力強化 次世代商品「電動駆動ユニット」の開発と事業拡大 小型、軽量、低ノ定フリクション化を実現するL&S商品の提供 世界シェアNo.1の2輪トランスミッション技術を活用した 「2輪EVユニット」の開発と事業拡大 積極的なCVC活動とパートナーシップによるシナジーの創出 エネルギーのグリーン化を促進するHSCを活用したソリューション開発		
	市場	顧客・消費者の意識・行動の変化 原材料コストの高騰	要件不適合による失注・メーカーレイアウト エネルギー高騰・環境付加価値による材料の高騰	※1 共通 3Rを取り入れたプロセス改善 サプライヤーとの協業による開発	※2 共通 積極的な3Rの推進や廃棄物管理の強化。また素材変更・新技術導入による工程革新を推進		
	評判	顧客・消費者の環境意識の変化 当該産業への非難拡大 ステークホルダーの不安・批判増大	カーボンニュートラルの取り組みや 開示の不十分による取引停止 投資撤退・株価の下落 開示情報の改ざんによる企業価値の失墜	サプライチェーン全体での取組みによるエンゲージメント強化 イニシアチブ賛同・参画によるエンゲージメント強化 ガバナンスの強化	TCFDへの賛同、CDP参加により、気候変動を含む環境問題、社会課題へ取組む体制の構築と推進		
物理的リスク	急性	台風・洪水などの異常気象の激甚化	通勤時など従業員の被災リスク 工場・設備などの被災による生産停止 サプライチェーンの寸断による生産・出荷停止	積極的なリモートワークの導入 BCP対策の強化（代替生産・インフラ共通化など）物流プロセスの最適化 レジリエンス関連事業の開発	DX人材の育成による業務のデジタル化を推進 「BCP委員会」による事業継続計画の策定と定期的な教育・訓練の実施 社会とムサシをグリーンで“繋ぐ”、グリーン戦略の推進		
	慢性降	水パターンの変化 気象パターンの極端な変化 海水面の上昇 平均気温の上昇	渇水による水量制限のための生産縮小・停止 急激な冷夏・暖冬によるGDP影響を受けた車両販売の低下 生産活動可能地域の減少 過酷な環境での労働による作業低下・労働災害の発生	節水にむけた改善活動の強化 柔軟な生産体制の構築 DX活用による生産ラインの自動化の加速 職場環境改善による従業員満足度の向上	水質管理と水使用量削減 ムサシのものづくりの強みである開発力・一貫生産体制・現場力を活かした高効率でフレキシブルな生産ラインの設計 AI技術を利用した自動化ソリューションの導入や健康経営を目指した体制の構築と推進		